

## 今、大阪市の教育は・・・

- 子どもが、学力と、それを支える自主学習習慣を身に付け、学習意欲を高めることが課題です
- 学校・家庭・地域の協働が進んできています

## 子どもが、学力と、それを支える自主学習習慣を身に付け、学習意欲を高めることが課題です

— 過去4年間の全国学力・学習状況調査の結果から —

### 学力の高位層の割合が低い傾向が見られます

得点高位層の割合が低い傾向が続いていますが、一人ひとりに応じて学力を伸ばす教育を進めることで、得点高位層の割合が全国平均を上回る教科もあらわれてきています。

### 自主学習習慣の定着が課題です

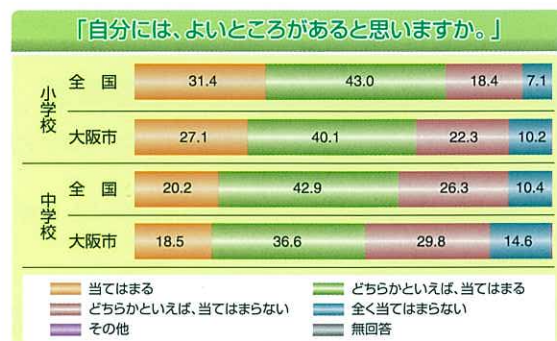
家で学校の授業の復習を全くしていない、あまりしていない割合は、小・中学校とも少しずつ減ってきていますが、なお70%程度あり、学校・家庭が連携した取組が必要です。



### 学習意欲の基本となる「やればできる」という自信を深める必要があります

成功体験が少なく、自分に自信が持てない子どもは、学習に取り組んでも、自分には無理だとあきらめてしまう傾向があります。

「自分には、よいところがあると思いますか」の問いに、全く当てはまらない、どちらかといえば、当てはまらないと答えている子どもは、小学校で30%超、中学校で45%程度います。そのような子どもに「やればできる」という自信を深められるような取組が必要です。



## 学校・家庭・地域の協働が進んできています

学校を中心に、地域のさまざまな人や団体が子どもに関わるしくみづくりが進められています。そのような人や団体のつながりによって子どもをはぐくむ取組が広がっています。



今、大切にしなければならないのは、  
大人が、子どもにしっかりと向き合い、一人ひとりのよいところを認めてはぐくむこと  
そのような教育を、学校や家庭、地域などが、それぞれのよいところを出し合って進めること  
そのために、教育にたずさわる全ての人々の「合言葉」として、

## “ええとこ”のばそ 大阪の教育 を掲げます

「“ええとこ”のばそ」には、次の3つの考えがこめられています。

### 大阪で学び、育つ子どもたちの“ええとこ”をはぐくむ



子どもは、誰かから認められ、必要とされていると感じることで、自分が価値ある存在だと気づきます。そのような気づきが、誰かの役に立つことをやってみようという意欲や、自分と同じように他者も大切な存在であるとの理解につながります。

そのためには、大人が、子どもをほめるときも、しかるときも、子どもにしっかりと向き合い、子どもの存在を認め、可能性を信じて、“ええとこ”を引き出そうとすることが大切です。

### 大阪に暮らし、活動する人々の“ええとこ”をつなげる



家庭は全ての教育の出発点です。子どもに正しい生活習慣などを身に付けさせることが期待されています。そして、学校園は子どもの発達に応じて体系的な教育を行う役割があります。

そのような家庭や学校園の教育を支えようと、地域のさまざまな人や団体が“ええとこ”を生かし取り組んでいます。それらの取組をつなげ、広げるためには、一人ひとりの大人が、社会総がかりで子どもをはぐくむという意識を共有し、自分には何ができるかを問いかけ、できることから始めることが求められています。

そのことを通して

### “大阪はええとこや”とみんなが誇りを持って言えるまちになっていく



大阪を担う人づくりが社会総がかりで進んでいくことで、“大阪はええとこや”とみんなが誇りを持って言えるまちになっていきます。

大阪市は、多彩な人々や個性ある教育コミュニティのつながりが深まっていくよう、しくみづくりや取組を進めます。